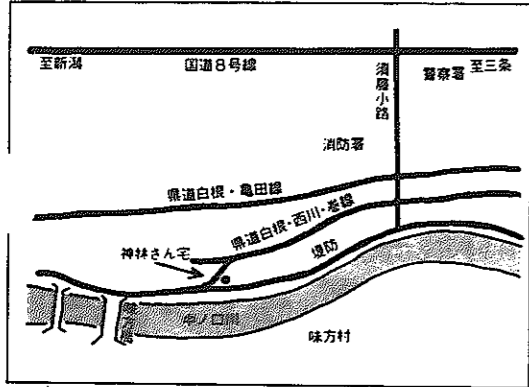


### 七軒・坂の登り口の井戸

井戸は現在の水道の場所にあったが、付近の土に油がしみ込んで役に立たなくなったため、10年ほど前に取り壊された。「飲み水として付近の人からよく利用され、うちの分が足らなくなって川へくみに行ったこともあります」と神林ミテさん（写真）は話している



語る人  
齊藤 弘さん  
(中央通一・67歳)

## 暑い日盛りの道、この水で元氣を取り戻した

七軒の坂の登り口左側に神林さんの家があり、この家の前にあった井戸の水は、ほんとうに冷たく澄んでいて、きれいなうまい水でした。

昔、味方、五ノ上、吉江方面から白根尋常高等小学校へ通学する子供は、みんな徒歩でここを通っていました。この子供たちは、暑くなると必ずと言ってよいほど、学校の帰りに無断でこの井

### 私の思い出 昔のわが街

戸水を飲んでいたものです。ワイワイ言いながら順番に並び、馬車馬のようにツルベに首を突っこんでゴクゴクと水を喝らして飲んでいました。今のようには食べ物をあまりなかった時代で、水を潤すだけでなく、おなかも満たしていたようです。

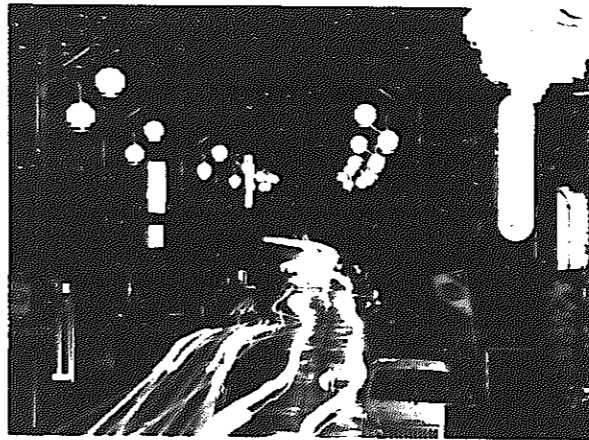
神林家の人たちも好意的にこれを黙認していたようです。ツルベが壊れて水が飲めないということは一度もありませんでした。

昭和六、七年ころのことでしょうか。私自身、味方から通学していたとき、この水を飲んで元氣を出し、また暑い日盛りの道を歩いたことが、今でもこの場所を通る度に懐かしく思い出されます。



## 白井商店街：新型の街路灯30基を設置

### 商店街を美しくいきいきと



信濃川堤防から小蔵子三方までの白井商店街(約四十店、八百坪)に、オレンジとグリーン二灯セットの県下で初めてという新型の街路灯が三十基設置されました。

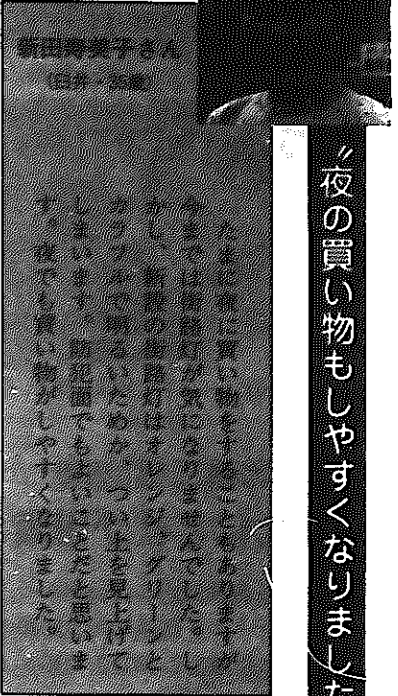
これは、同商店街が昭和三十八年十一月三日「明るい商店街づくり」を目指して設置したものが古くなったため、昨年五月に街路灯

の設置を決め、準備を進めてきた結果実現したものです。

七月一日の点灯式には、各商店とも紅白の幕を張って完成を祝い午後六時三十分、花火の打ち上げを合図に、市長、商工会長、上田白井商栄会会長の三人がスイッチを入れました。十六日までは、街路灯の新設を記念して大売り出しも行われました。

上田会長は「商店街の活性化と美化のため新設に踏み切りました。笠は八角形で、上の部分が丸くなっていて雪国タイプです。明るすぎても困りますので四十ワットにしました。防犯にも役立てばと思います」と話していました。

市では、商店街の近代化を進めるため、これまでの設備近代化資金の利子補給に加え、本年度から「商店街設備近代化促進事業費補助金交付要綱」を定め、工事費の一部補助をすることにし、白井商店街が同要綱に基づく第一号となりました。同要綱について詳しくは商工観光課(☎217)へ。



夜の買い物もしやすくなりました



昭和四十三年、故福島定治氏(当時、市教育委員会 社会教育主事)編集「しろねのじごば」から

- たれこちだ 出そうだ
- だんだんはや いつもいつも
- だんなしよ 旧家、良家
- おーやけ
- おやさま 根岸地方
- ちーけ 近い
- ちーけえ 新飯田地方
- ちーせ 小さい
- ちんこい 白根地方
- ちーと 少い。新飯田地方
- ちーとばかられも 少しですが
- ちこうのう 違います
- ちこがんだ 全地域
- ちころも 子供
- ちそ しろ。茨曾根・白井・大郷・鷲巻地方
- ちやがらあけ 水こぼし
- ちやこぼし 新飯田・茨曾根地方
- ちやば にとり
- とり 新飯田地方
- ちようもん 中門。新飯田・茨曾根・白井・大郷・鷲巻地方
- ちようたく ころしめる
- ちよたくしゆー 全地域
- ちんびら 不良者、やくざ者。
- 新飯田地方
- ころつき
- つーいえ 強い。茨曾根・白根・白井地方
- つあつあつ 父。新飯田・茨曾根・庄瀬・白根・白井・鷲巻・根岸地方
- おとと
- とと 全地域
- とつあー 新飯田・茨曾根・庄瀬・白根・白井・鷲巻地方
- つか お手玉。新飯田・茨曾根地方
- おひとつ 白根・根岸地方
- ざつき 新飯田・庄瀬・白井・大郷・鷲巻地方
- たま 庄瀬地方
- つけもん 漬物
- つら 顔
- つれい つらい。白根・白井地方
- でいぐし あぐら
- でえぶし 茨曾根・庄瀬地方
- でえーこん 大根
- でつかえ 大きい。新飯田・白根・鷲巻地方
- でつけえ 庄瀬地方
- でつこい 新飯田・白根・白井・根岸地方



### 子供文化を見直す

ハイテク情報社会に生きる現代中学生は、明るくて現実的な考え方で、自己実現に向けてがんばっています。

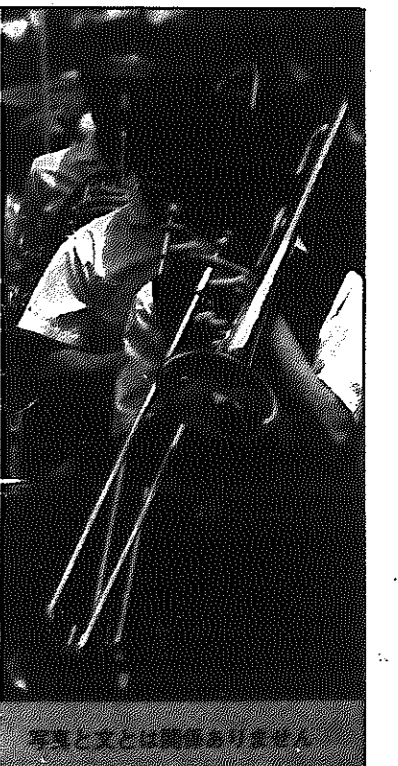
教室で見受けられる現代っ子の消費生活は、豊かな物と、商業主義の「子供文化」の影響を受けて、大きく変化しています。機能価値が無視されて無用の装飾が付けられた学用品などが、あつという間に全校に流行し、今までの学用品は見向きもされなくなる。授業中にシャープペンシルをいたずらの道具にして満足に使わないうちに捨ててしまう。

もつたないことです。物をそまつに扱う生活は、現代の大人の生活の投影ではないかと考えさせられる一面もあります。このことが、生活感覚を乱して時間をそまつにしたり、欲求を満たすため衝動的な行動に走りたりする原因の一つではないかと心配するものです。

流行や宣伝に惑わされず、落ち着いて自己を見つめ「何のために」というのを明確にした行動をたいせつにする必要はないでしょうか。子供の価値判断のものがしが利害と損得を重視しがちの現代に、友達との立場に立つて考え、相手の気持ちを思いやる豊かな情操をはぐくむ必要が痛感されます。

本校の教育目標の一つ「助け合う心豊かな生徒」の下で、社会の病理現象に汚染されない、賢く、たくましい生徒の育成を目指しています。

(白根第一中学校にお願いしました)



写真と文とは関係ありません